2024年度施設評価

2024年度末に行った職員の自己評価と保護者アンケートをもとに、清水みらい保育園として、施設の自己評価を集計・考察しました。

1. 保育理念・目標・計画・評価

キャッチコピー【みんなが かがやく みらい・今（今日）をとことん生きる】

令和6年度が始まる前に、職員ひとりひとりが思い描いている子ども像を話し合った。子どもは、毎日を懸命に生きていること、育とうとする力を持っていることを理解するためには、各年齢の成長発達を理解していることが大前提になくてはならない。また、個々の成長発達段階がわかり、その個に合わせた保育の提供を行った。しかし、何歳までに〇〇ができるようにしなくてはならないという考えからの脱却をすることが難しかった。

多様な時代の中で、保育者自身の考え方を変えていくことを今後の課題としていく。

2. 保育内容

・0、1、2歳児の育児担当制保育を取り入れることで、子ども自身が見通しをもって生活ができるようになっていく。

遊びに関しては、子どもの成長に保育者の玩具の提供が追い付かない時もあったが、クラス内で子どもの様子を話し合う習慣ができてからは、充足している。

- ・3歳児クラスは、前年度からの流れる保育の継続ができ、子ども自身が遊びを選べる環境が整っていた。
- ・4、5歳児クラスは、個々の興味関心を尊重した保育を展開することができた。
- ・子どもが主体となって、遊びを中心とする自発的な活動に取り組むことができるための環境作りをこれからも学び続けることが今後の課題である。

3. 保育園の組織・役割分担

- ・フリー保育士が各クラスの手作り玩具の作成、ヘルプに入る等ができたため、保育者の気持ちにゆとりが生まれていた。
- ・園庭の整備をする担当者がいたため、ビオトープを清潔に保つことや、緑化を進めることができた。
- ・課題としては、自分のクラス外は他人任せになってしまうことである。クラスの枠を超えて、みらい保育園にいる、すべての子どもの最善の利益を考えることができる組織を作っていきたい。

4. 家庭と、地域との連携

- ・保護者が保育士体験を通して、我が子の成長や普段の生活ぶりを肌で感じてもらうことができた。保護者のアンケートの結果から、園の方針の理解を深められたと読み取ることができた。
- ・小学校へ年長児が遊びに行く機会を持つことができ、幼小の連携がこれから進んでいくことが予想される。

5. 事務管理・運用

- ・個人記録簿は適切に整理保管している。
- ・職員に園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している。

6. 情報発信

- ・保育園便り、クラス便り、食育便り、ホームページ等で施設の情報を発信している。

7. その他

- 個人の自己評価では、職員間のコミュニケーションについては是非が分かれていた。
- 職員全員が、キャリアコンサルティングの研修を受け、自分自身の人生の振り返りと今後の人生をどう生きるか等を考えることができた。
- 外部への視察研修から、自園にも取り入れたいこと、実現したいことに向けて動き始めた職員が出てきた。